

第2回検討会の振り返り

令和7年8月7日
石川県健康福祉部

- のと里山空港周辺に**新たな基幹病院を建設**し、4病院の**救急機能**や**入院機能**を集約
- 新病院には、どのような病気でも幅広く診ることのできる**総合診療医を配置**することにより**断らない救急を**目指すこと
- 4病院は主に**住民のかかりつけ医**としての機能を担う**サテライト医療機関**と位置付け、新病院と一体的に地域医療を支えること
- サテライト医療機関は、外来医療などの**日常の医療を**中心に**提供**し、また地域の実情に応じて**介護医療院等**を**併設**すること

第2回検討会の意見①（再編・統合について）



※第2回検討会における主な意見を事務局で整理したもの

- 新病院の場所を能登空港周辺にしたことは、市民や職員の移動を考えるとよかったが、災害時は道が断絶したので、里山海道を早く市街地までつなげて欲しい。（輪島病院）
- 機能強化の方向性について異論はないが、医療機能については、産科を含め今より充実していただく必要がある。病院を誰が建設し、誰が運営するのが大切だと考える。（輪島市）
- 新病院は珠洲からは遠くなるが、4病院が一緒になるということを考えるとやむを得ないと考えている。提示いただいた内容がベストと考えている。（珠洲病院）
- 基本的には、珠洲市としても異論はない。日々、状況が変わっていて、様々な面が数十年前倒ししている。再編にむけてタイムスケジュール、財政、人の手配の問題をどういうスケジュールで進めていくのか気にしている。（珠洲市）
- 新病院の場所が穴水にとって近い場所なので内心ほっとしている。（穴水病院）
- 方向性については異存がないので、議論を早く進めて欲しい。（穴水町）
- 規模や機能は明らかになっていないが、場所のはっきりした。良い落としどころだと思う。大同小異という言葉があり、大同で進めて欲しいが、小さい部分に配慮も必要。（能登町）
- 全国的に経営状態も悪くなり、病院数や病床数はどんどん減っている中、新たな病院を作るというのは大きな決断だと思う。背景人口を踏まえると、新たに病院を建てるのであれば、救急機能を1つに集約する覚悟が必要。（恵寿病院）
- 能登の高齢化は日本の最先端であり、震災前から各病院単独で維持するのは難しく、4病院の統合が必要と言われていた。今回提示された再編統合の案は、今後の日本の地域医療のひとつの方向性になる。人口が少ないなかで、新病院を立ち上げるのは、相当な覚悟、経営感覚が必要。持続可能な経営、どのような機械を入れるかなどを煮詰めていってもらえればと思う。（医科大学病院）

第2回検討会の意見②（医療機能について）



※第2回検討会における医療機能の主な意見を事務局で整理したもの

＜サテライトの機能＞

- 地域の介護施設はスタッフ不足により、地震前に比べると大幅に受入れが減っていることから、サテライトでは介護機能を強化していく。（輪島病院）
- サテライトの機能については、今まで通りの外来や透析などを残さないといけない。地域の介護施設がなかなか再開しない可能性も出てきたので介護施設の併設も含めて考えないといけない。ただ介護施設が地元に必要なかどうかは検討が必要。（珠洲病院）

＜新病院の機能＞

- がんの治療や緊急の手術をどの程度やる予定か明確にして欲しい（宇出津病院）
- 新病院では分娩にも対応できるようにして欲しい。（珠洲病院）
- 奥能登でも分娩ができればよいことだが、日本全国で産科医が少なく苦勞している。分娩を休止しているこの1年で支障があったのかデータで示して欲しい。（穴水病院）
- 新病院で分娩する場合、24時間体制でスタッフを確保する必要があり、負担が大きすぎることを懸念している。（能登総合病院）
- 震災前から民間の歯科診療所に後継者がいないことを懸念していた。新病院では歯科的な治療も考えて欲しい。（歯科医師会）

第2回検討会の意見③（人材について）



※第2回検討会における医療機能の主な意見を事務局で整理したもの

- 今後も看護師の新規採用を行うべきかに影響するため、**再編統合後の雇用の方針**を早く出して欲しい。（宇出津病院）
- 総合診療医には家庭医と病院での総合診療という種類があり、**病院で働く総合診療医**は、どの病院も欲しがっているが、なり手がいない。新病院ができるまで、どうやって確保していくか考える必要がある。（県立中央病院）
- 能登北部で活躍する医師をどのように育てるかを考えると、総合診療医の育成が大切と考えており、**地域枠と研修医を研修センター**で育てていく。特に地域枠で総合診療ができる医師を育てていく。そのうえで、総合診療をやりたいと考える若手医師や、ダブルボードの医師を育成していく、**リカレント教育**というのが私たちにできること。（金大附属病院）
- 総合内科で育てていこうと取組みをしているが、5年はかかるので時間的猶予が必要。（医科大学病院）
- 能登の開業医は後継者がいない場合も多いので、**新病院の先生が外に出ていく**ということが必要になる。（県医師会）
- 看護師はオンライン診療、仮設見回り、介護施設での勤務などでの役割が多くなると過剰な負担がかかる。特に看護師の年齢層が高いという課題もある。（県看護協会）
- 薬剤師不足は深刻であり、各病院が救急医療を維持しようとする、人数が少なすぎて、地域を離れられず、旅行にも行けない状況の病院もある。薬剤師を確実に確保していくには、新病院が必要。（県薬剤師会）

第2回検討会の意見④（他医療圏との連携）



※第2回検討会における医療機能の主な意見を事務局で整理したもの

- 能登中部と能登北部を一体の医療圏として考え、全体像のなかでの病院機能を考えて欲しい。そのため、道路などの搬送経路の改善やドクヘリや防災ヘリを活用することも考えて欲しい。（恵寿病院）
- バーチャルな1つの病院として、会議体や検討会の場を設けてはどうかと考えている。その中でオンライン診療の活用薬の地域フォーミュラリに取り組むことをしてはどうか。（恵寿病院）
- 薬の地域フォーミュラリについては大変有効ではないかと考えている。（県薬剤師会）
- 高齢者は病院と介護をいったりきたりしているので、いかに医療・介護と情報共有し、全体を見渡すというのが重要になってくる。情報をいかに共有するのかというところについて日本のDXの先端として、能登北部・中部をあわせた医療介護情報の連携システムというものがあったら良いのではないかと。（恵寿病院）
- オンライン診療は重要。サービスを継続していくにはデジタルの活用が重要。一方、対面も必要なので、こうしたものも交えてやっていくことが重要。（県医師会）

第2回奥能登公立4病院 機能強化検討会

令和7年2月19日
石川県健康福祉部

奥能登公立4病院の機能強化の方向性（素案）

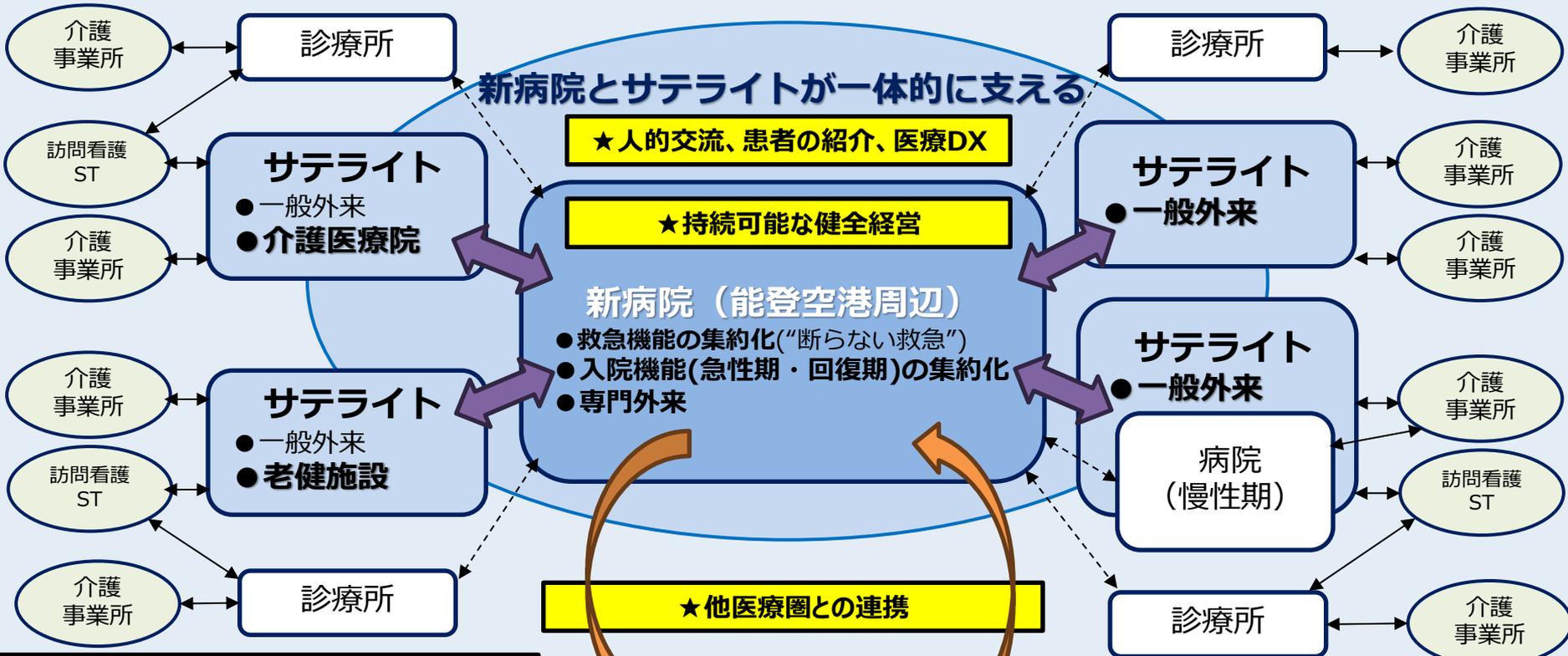
- 奥能登公立4病院の機能強化の方向性（素案）は、「第1回奥能登公立4病院機能強化検討会」（8/8）や「奥能登公立4病院機能強化検討会WG」（11/8）における意見、委員への追加意見聴取の結果を踏まえて事務局で作成しました。

奥能登の住民の命と健康を守る「新病院とサテライトのグループ」



★将来の介護需要を見据え、介護施設等を併設

★サテライトを設け、患者の医療アクセスを確保



◎ **専門病院**（金大、医科大、県中、能登総合、恵寿など）
 がんの手術や放射線治療、循環器病の手術など急性心筋梗塞、脳卒中の超急性期治療については、新病院は、他の医療圏の病院と連携して提供

◎ **大学病院**
 新病院は、金沢大学、金沢医科大学、県立中央病院と連携し、どのような病気でも幅広く診ることができ、救急医療に対応できる総合診療医等を育成

第1回検討会の意見を踏まえた機能強化の方向性（案）



（2040構想①：医療需要を踏まえた再編・統合）

- 将来の医療需要を踏まえ、新病院に急性期・回復期の入院機能を集約し、断らない救急医療体制を構築
- サテライトは、診療所に転換し、地域住民・患者の医療アクセス（一般外来、巡回診療）を確保

（2040構想②：他の医療圏との連携）

- 限られた医療資源を有効に活用するため、がんの手術、放射線治療や循環器病の手術など急性心筋梗塞や脳卒中の超急性期治療については、新病院は、他の医療圏の病院と連携して、提供

現状

地震前から、医療従事者不足により、将来、各病院単独での救急医療等の機能維持が困難との意見があった

輪島病院

珠洲病院

穴水病院

宇出津病院

- 救急医療
- 入院（急性期・回復期）
- 一般外来・専門外来
- 介護（一部病院）

救急・入院機能を
新病院に集約

外来・巡回診療等の
かかりつけ医
機能をサテライト
に維持し、地域住
民の医療アクセス
を確保

再編後

機能を集約し、将来にわたって
救急医療提供体制を維持・強化

地域を一体的
に支える

サテライト

- 一般外来
- 介護医療院

人的交流

サテライト

- 一般外来
- 老健施設

新病院

- 救急医療
（“断らない救急”）
- 入院機能
（急性期・回復期）
- 専門外来

サテライト

- 一般外来

サテライト

- 一般外来
- 慢性期

他医療圏との連携

がんの手術、放射線治療や循環器病の手術など他の医療圏の病院と連携

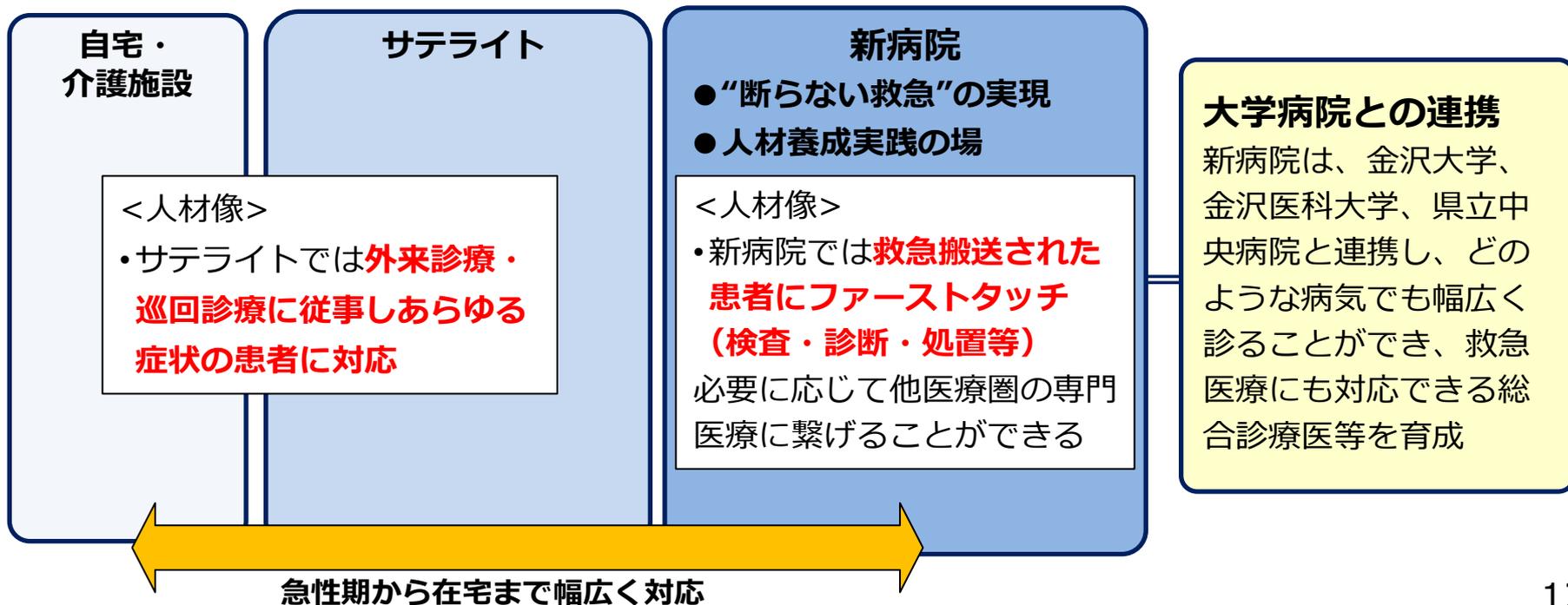
第1回検討会の意見を踏まえた機能強化の方向性（案）



（人材）

- 新病院は、金沢大学、金沢医科大学、県立中央病院と連携プログラムを策定し、どのような病気でも幅広く診ることができ、救急医療にも対応できる総合診療医を育成
- 総合診療医等は、新病院（救急医療）とサテライト（外来診療・巡回診療など）に勤務し、地域医療に貢献

幅広い患者に対応できる人材の育成



本日は、「機能強化の方向性」（素案）について、忌憚のない意見交換を進めたいと考えています。特に以下の点について、ご意見を頂きたいと考えています。

- ・再編・統合の基本的な考え方（新病院・サテライトの役割分担）
- ・医療機能（断らない救急医療体制の構築、他医療圏との連携）
- ・人材確保・職員配置（総合診療医の確保等）
- ・建設場所（能登空港周辺）